

## TSR - Press Release

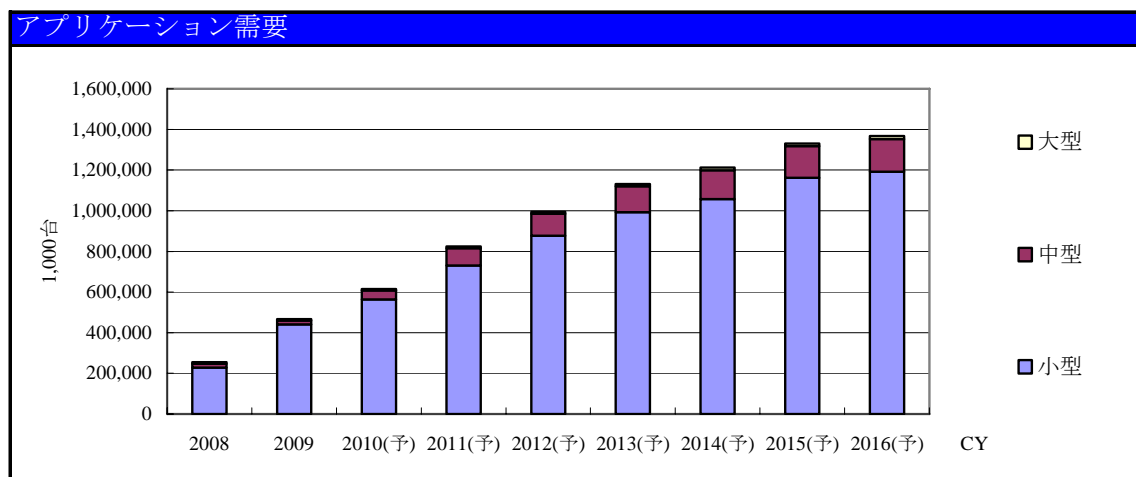
# 2010年 タッチスクリーン市場 6億枚突破へ

～静電容量方式への切り替えにより抵抗膜方式が一時減少！～

～2010年以降、静電容量方式のディスプレイ一体型がTSP:タッチスクリーンパネルの主流に～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは、タッチスクリーンパネル(以降「TSP」)の市場分析結果を発表しました。

2007年のApple “i-Phone”の登場から3年目を迎え、2009年に11.4億台まで成長を遂げていた携帯電話市場において、フルタッチタイプやQWERTキーを搭載したデザインが 2009年には2.6億台、2010年には3.5億台まで拡大する見込である。スマートフォン形状の拡大が牽引し、携帯電話向けTSPの需要も急増し4億台に迫る勢いである。(ノンブランド・山寨機を含む)



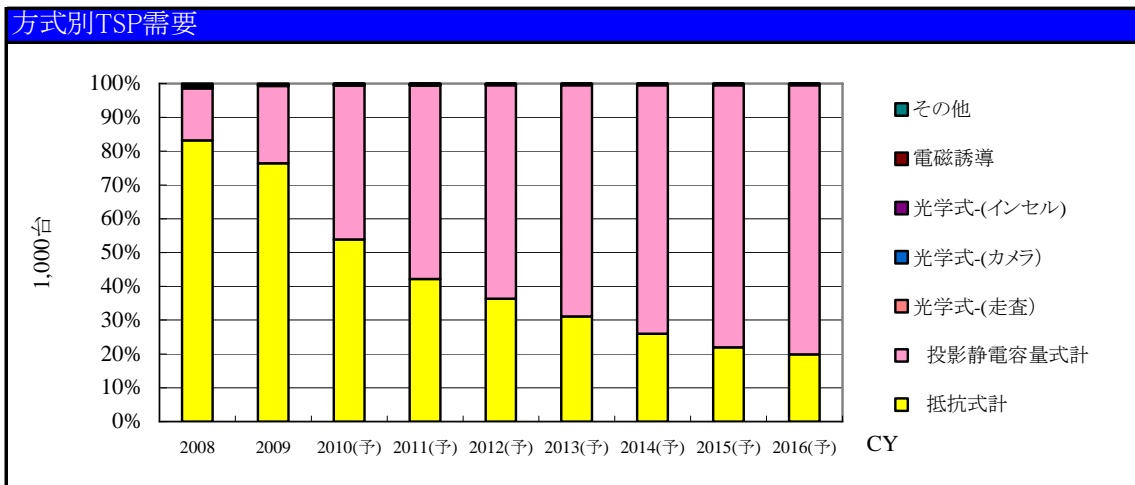
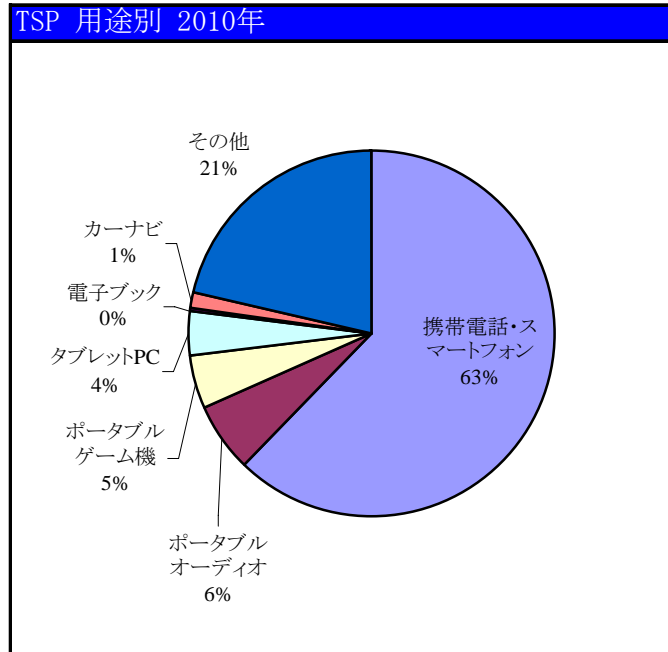
さらに、デジタルスチールカメラにおけるTSP搭載率の上昇やAppleがタッチパネル搭載ポータブルオーディオ “nano”の登場により小型TSP市場は2009年の4.4億台から2010年に5.6億台を突破する見込である。

加えて、中型TSP（7-9”）はカーナビゲーション及び業務用端末機向けに限られていたが同市場においてもAppleが2010年フルタッチ型タブレットPC “i-pad”を投入し、競合他社でも追随製品の投入が進められ、2010年に中型TSPはタブレットPCを含め4,000万台まで拡大する見込である。

大型市場・超大型市場でもアミューズや券売機・サイネージなどの業務用TSPの増加と、オールインワンPCによる搭載率上昇が牽引し、2010年タッチパネル市場は前年比31%増の6.1億枚を突破し、2016年には13.6億枚まで成長が見込まれる。

方式別では中小型で採用が多い抵抗膜式からAppleが採用している静電容量方式にシフトしている。抵抗膜式に比べ価格差があるものの、スライドの操作性、マルチタッチ入力 of 優位性を活かし採用が進められている。ただし、コントローラICを含む

TSPサプライチェーンの確立がされていかなかったことから、Apple以外の採用は2010年からの本格採用となり2010年にはTSP市場における投影型静電容量の割合が45%まで上昇し、携帯電話を中心に市場が拡大する見込である。なお、静電容量式への切り替えにより抵抗膜式タッチパネルの割合は徐々に減少していくものの、静電容量式に対するコスト優位性から、需要は継続する見込である。



静電容量方式の採用によりTSPの参入メーカーが大きく変化し始めている。抵抗膜式TSPの供給メーカーは日本写真印刷やアルプス電気及び台湾Young Fast, J-TouchなどTSP専業メーカーが多くを占めていた。一方、静電容量式タッチパネルはコントロールIC、センサー基板、貼り合せ工程を一貫供給できるメーカーが殆どなく、様々なメーカーが工程を細分化し供給を行っていた。特に、センサー基板はLCDや有機ELディスプレイの製造設備でのTSP生産が可能であることから、多くのディスプレイ関連メーカーが参入を行っている。その為、静電容量方式においてもセンサー基板の種類がディスプレイ別体（ガラスセンサー・フィルムセンサー）とディスプレイ一体型（オンセル・インセル）等に分かれている。

ディスプレイ別体式TSPが主流であるものの、薄型化・軽量化・コストダウンへの要求は強まる見込であり、ディスプレイ一体型TSPの需要が拡大する可能性が高くなっている。

#### 【資料紹介】

『2010年 タッチパネル市場総覧』は拡大するタッチスクリーン市場において、各搭載アプリケーションの動向や搭載状況、TSPの供給関係などを網羅すると共に、方式別需要など各種分析を行っております。

---

#### 【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 武花 勇一 (takehana@t-s-r.co.jp)

Tel: 03-3866-4505